

中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について

政策情報課

標記戦略は、達成率と進捗率により評価する。

なお、進捗率による判定が相応しくない指標（毎年0から計上を開始する指標等）は達成率のみにより評価する。

○達成率＝実績値／目標値

○進捗率＝（実績値－基準値）／（目標値－基準値）

【進捗状況判定基準（H29）】

評価	進捗率あり	進捗率なし
達成	達成率が100%以上	
順調	進捗率が60%以上	達成率が100%未満90%以上
概ね順調	進捗率が48%以上60%未満	達成率が90%未満80%以上
努力を要する	進捗率が48%未満	達成率が80%未満
実績値なし	実績値が把握できない場合	

※進捗率の判定基準は、比例的に進捗した場合の平成31年度の進捗見込みにより設定した。

- ・100%以上となる見込み：順調
- ・80%以上100%未満となる見込み：概ね順調
- ・80%未満となる見込み：努力を要する

よって進捗率の判定は下図のとおり

	H27	H28	H29	H30	H31
順調	20%以上	40%以上	60%以上	80%以上	100%以上
概ね順調	16%以上	32%以上	48%以上	64%以上	80%以上
努力を要する	16%未満	32%未満	48%未満	64%未満	80%未満

中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 3年目評価(案)

政策情報課

○達成、順調あるいは概ね順調である割合は64.7%(33/51項目)

評価区分	項目数
達成	13
順調	16
概ね順調	4
効果が現れていない	4
努力を要する	13
代替指標によるもの	1
合計	51

(基本目標3:農業付加価値額)

○基本目標の進捗状況

項目		基準数値	目標数値	実績
基本目標1	合計特殊出生率	1.65 (H26)	1.60	1.45(H28) 順調
	婚姻届出件数	561件 (H26)	590件	558件 順調
基本目標2	転入者数	1,277人 (H26)	1,330人	1,211人 順調
	住み良いと感じる市民の割合	74.8% (H27)	85.0%以上	79.5% 順調
基本目標3	市内事業所就業者数	17,938人 (H24)	17,316人	18,232人(H28速報値) 達成
	農業付加価値額	2,204百万円 (H24)	2,215百万円	4,186千円 (H29農業所得)
基本目標4	健康寿命(男性)	79.75歳 (H25)	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加	80.50歳(H27) 概ね順調
	健康寿命(女性)	84.78歳 (H25)		84.16歳(H27) 達成
	小さな拠点の形成	—	1か所(累計)	効果が現れていない

(参考)

中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2年目評価

政策情報課

○達成、順調あるいは概ね順調である割合は62.7%(32/51項目)

評価区分	項目数
達成	8
順調	17
概ね順調	7
効果が現れていない	5
努力を要する	13
代替指標によるもの	1
合計	51

(基本目標3:農業付加価値額)

○基本目標の進捗状況

項目		基準数値	目標数値	実績
基本目標1	合計特殊出生率	1.65 (H26)	1.60	1.58(H27) 順調
	婚姻届出件数	561件 (H26)	590件	553件 順調
基本目標2	転入者数	1,277人 (H26)	1,330人	1,246人 順調
	住み良いと感じる市民の割合	74.8% (H27)	85.0%以上	77.7% 順調
基本目標3	市内事業所就業者数	17,938人 (H24)	17,316人	18,232人(H28速報値) 達成
	農業付加価値額	2,204百万円 (H24)	2,215百万円	3,620千円 (H28農業所得)
基本目標4	健康寿命(男性)	79.75歳 (H25)	平均寿命の 増加分を上回る 健康寿命の増加	80.22歳(H26) 概ね順調
	健康寿命(女性)	84.78歳 (H25)		84.15歳(H26) 達成
	小さな拠点の形成	—	1か所(累計)	効果が 現れていない

(参考)

中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 1年目評価

政策情報課

○既に達成、順調あるいは概ね順調な項目は5割弱(49.0%、25/51項目)

評価区分	項目数
達成	4
順調	14
概ね順調	7
効果が現れていない	6
努力を要する	15
実績値なし	5
合計	51

○基本目標の進捗状況

	項目	基準数値	目標数値	実績
基本目標1	合計特殊出生率	1.65 (H26)	1.60	—※
	婚姻届出件数	561件 (H26)	590件	553件 順調
基本目標2	転入者数	1,277人 (H26)	1,330人	1,295人 順調
	住み良いと感じる 市民の割合	74.8% (H27)	85.0%以上	74.8% 概ね順調
基本目標3	市内事業所就業者数	17,938人 (H24)	17,316人	—※
	農業付加価値額	2,204百万円 (H24)	2,215百万円	—※
基本目標4	健康寿命(男性)	79.75歳 (H25)	平均寿命の 増加分を上回る 健康寿命の増加	—※
	健康寿命(女性)	84.78歳 (H25)		—※
	小さな拠点の形成	—	1か所(累計)	効果が 現れていない

※H27の数値が現時点で把握できない項目

【基本目標1】子育て・子育て安心戦略 ～自然減の抑制～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
合計特殊出生率	-	1.65	26	年	1.60	毎年12月頃	1.45 (H28)	91.0	-	順調	・近年ほぼ横ばい状態である。	・結婚から子育てまでの戦略が、今だ成果として表れていない。	・切れ目のない結婚、妊娠、出産、子育て支援施策の充実により、健やかに産み育てる環境づくりを推進する。	適
婚姻届出件数	件	561	26	年度	590	毎月	558	94.6	-	順調	・平成28年度と同程度の件数を維持できた。		・平成29年度に創設しためぐりあいセッティング事業補助金の交付を通じ、出会いの場の機会を増やす。	適

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否		
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果	
婚活イベント開催数	回	5	26	年度	10	毎月	6	60.0	-	努力を要する	・目標回数には及ばなかったが、内容を工夫しカップリング数は増加した。(H28 24組→H29 45組うち市内在住在勤67人)		・平成29年度に創設しためぐりあいセッティング事業補助金の交付を通じ、出会いの場の創出を図るための事業を実施する団体に対し支援を行う。	適	
出生数	人	340	26	年	340	毎月	337	99.1	-	順調	・減少傾向にある。	・出生に関わる15歳～49歳の女性人口が減少していることが原因の一つと思われる。(H24からH28までに486人(5.8%)減)	・切れ目のない結婚、妊娠、出産、子育て支援施策の充実により、健やかに産み育てる環境づくりを推進する。	適	
妊婦一般健康診査受診率	%	99.1	26	年度	100.0	毎年6月頃	99.1	99.1	-	順調	・目標に近い進捗状況である。	・県外で妊婦健診を受けた者の把握が遅れる。	・受診票交付時に早期の受診勧奨と県外で受診した妊婦健診市負担金の早期請求手続きを促す。	適	
15歳以下の子がいる世帯の転入世帯数	世帯	105	26	年度	110	毎月	115	104.5	-	達成	・平成28年度と同程度の件数を維持できた。		・子育て支援策の推進を図り、子育て家庭にとって魅力のあるまちづくりを進める。	適	
地域行事に参加している児童の割合(小学6年生)	%	91.9	26	年度	維持・向上	毎年11月頃	83.2	90.5	-	順調	・目標に近い進捗状況である。		・児童の健全育成に資する地域行事・活動への参加を促す。	適	
学校支援ボランティア数	人	319	29	年度	350	毎月	364	104.0	-	達成	・地域社会全体で子どもと学校を支えるコミュニティスクールの取組を推進することができた。		・地域と学校が協働して子どもたちを育てる環境づくりを図る。	適	
外国語指導助手(ALT)配置人数	小学校	人	0	26	年度	2	年度当初	2	100.0	-	達成	・ALT2人を配置することにより、外国語教育を推進した。		・ALTを有効活用し、外国語教育の充実を図る。	適
	中学校	人	4	26	年度	4	年度当初	4	100.0	-	達成	・ALT4人を配置することにより、英語力(話す力、聞く力)の向上に寄与した。		・学級数が減少し、ALT授業数も減るが、デジタル教科書等活用し、減少の影響を受けないよう、ALTを効率的に配置し、英語によるコミュニケーション力の育成を図る。	適

項目・指標等		基準数値概要				H31 目標数 値	測定可能 頻度	H29					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
		単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
将来の夢・目標を持っている児童・生徒の割合	小学6年生	%	86.1	26	年度	90以上	毎年11月頃	88.3	98.1	-	順調	・夢の教室(5年)を実施し、将来に夢や目標を持ち努力することの大切さや人の生き方を学んだ。		・児童が自己の将来の進路について考える契機となるよう各種事業を継続実施する。	適
	中学3年生	%	70.1	26	年度	75以上	毎年11月頃	74.1	98.8	-	順調	・jobセミナー(1年)、職場体験(2年)、キャリア教育講演会(全学年)を実施し、働くことの喜びや大切さを学んだ。		・児童が自己の将来の進路について考える契機となるよう各種事業を継続実施する。	適

【基本目標2】「故郷」のふるさとに住まう人口定着戦略 ～社会増の転換～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
転入者	人	1,277	26	年	1,330	毎月	1,211	91.1	-	順調	・社会増への転換を目指して、各種施策を総合的に推進した	・転入者が減少し、転出超過の状態が続いている。特に若年層の流出超過が課題である。	・大学等への進学に伴う転出は今後も続く見込まれるため、Uターンの促進を図るとともに、本市の強みを活かした新規就農支援など、引き続き就業環境の充実等により移住者を積極的に呼び込む施策を展開する。	適
住みよいと感じる市民の割合	%	74.8	27	年度	85以上	毎年10月頃	79.5	93.5	-	順調	・年々数値が向上している。	・年代による差はそれほどないが、居住地区による数値のばらつきが見られる。	・住みよさを感じるには多様な要素が関係するが、定住意欲の向上につながるため、シティープロモーション事業を開始した。	適

■重要業績評価指標 (KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
地域ブランド調査認知度全国ランキング	位	842	26	年度	500	毎年10月頃	828	60.4	-	努力を要する	・観光宣伝を行っている。	・全国的に認知度の高いツールを活用した観光宣伝を行う必要がある。 ・製品のブランド化には時間がかかるため、長期的取組が必要となる。	・近隣市町村と連携し、認知度の向上を図る。 ・食の大使を活用し、情報発信を行う。 ・全国的に認知度の高いアウトドアイベント(SEA TO SUMMIT)を活用した観光宣伝を行い、認知度向上を図る。	適
空き家バンク登録物件への移住世帯数	世帯	-	-	年度	5	毎月	0	0.0	-	努力を要する			・引き続き広報紙やホームページによる情報発信と首都圏等での移住セミナー相談会に参加する。	適
CCRC整備区域数	区域	-	-	年度	1	年度末	-	#VALUE!	-	効果が現れていない	・情報収集を行った。	・全国的にも成功事例が少ないため、試行錯誤に時間が必要。	・先行事例を参考に政策研究所のメンバーで検討する。	適
新規就農者数	人	25	26	年度	120	毎年12月頃	55	-	45.8	努力を要する	・平成29年度の新規就農者数は15人であり、昨年度の25人を下回る結果となった。	・就農希望者の相談内容が個々で異なるため、柔軟な対応が必要である。	・北信農業改良普及センター、市内農協等と連携するとともに、各種就農相談会に積極的に参加する。	適
市制度活用による住宅取得者数	世帯	-	-	年度	2	毎月	-	#VALUE!	-	効果が現れていない		・新たな住宅取得制度の構築については、単純な個人資産への投資とならない制度などの課題が多いが、先進地の視察及び事例の研究を進めて構築したい。	・土地開発公社で販売している南沖団地3区画を中心に若者(30歳代)を考慮しながら情報発信を行う。 ・地元豊田地域への発信、次いで長野市方面へ、販売価格の改定や交通の利便性が向上した旨の情報の発信を行う。	否
30歳代の転入者数	人	279	26	年度	299	毎月	316	105.7	-	達成	・目標は達成された。	・子育て世代の希望する条件にあった環境整備が必要である。	・引き続き、広報紙、ホームページ、SNSにより情報発信を行う。	適
市民手づくりコンサート開催回数	回	9	26	年度	12	毎月	8	66.7	-	努力を要する	・目標数には達しなかったが、広報活動の充実を図った結果、実績値が大幅に増加した。	・開催する市民グループが固定化している。	・市民が手作りコンサートをしようと思うよう働きかけ、市内音楽団を中心にチラシを配布するなど、引き続き広報活動を推進し、事業の趣旨の周知を図る。	適

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
体育施設延べ使用人数	人	245,614	26	年度	290,000	毎月	237,939	82.0	-	概ね順調	・前年度より若干下回ったが、ほぼ昨年並みに使用された。 ・市民プール営業の効率化のため、利用期間が短くなり利用者が減った。また、少子高齢化により利用者が減っている。	・平成30年度にスポーツ推進計画を見直し、施設利用者増に努める。	適
中野陣屋県庁記念館、博物館の利用者数	人	49,209	26	年度	50,000	毎月	46,190	92.4	-	順調	・平成29年度の2施設の入館者数 陣屋県庁記念館34,882人 博物館11,308人 計46,190人	・今後、入館者の増加を図るべく、街中のイベント等に積極的に協力、PRを行っていく。	適

※1 H27～31累計 ※2 H27～28累計

【基本目標3】雇用創出と「信州なかの」ブランドをいかした産業振興戦略 ～労働と基幹産業の安定～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否	
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果
市内事業所就業者数	人	17,938	24	年	17,316	5年毎	18,232 (H28速報値)	105.3	-	達成		・事業所数が減少傾向であり、創業支援を充実する必要がある。	・全国的にも高い水準にある女性と高齢者の就業率の維持向上を図るため、本市の強みを活かした産業振興を展開する。	適
農業付加価値額	百万円	2,204	24	年	2,215	5年毎	(H29農業所得実績値) 4,186千円 (H28農業所得実績値) 3,620千円 (H27農業所得実績値) 3,403千円		-	-	・経済センサスが5年に1度の調査のため、実績値が出ていないので、代替として、農業所得実績値を記載。	・農業の高齢化、担い手不足が課題である。	・信州中野ブランド認知度の向上のためにイベント等へ出店をする。 ・6次産業化事業化、新技術確立への支援を行う。	適

■重要業績評価指標(KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否		
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況				成果	
イベントの開催及び出展回数	回	13	26	年度	30	毎月	167	556.7	-	達成	・一般の生産者及び事業者の事業参加が推進され、地域が一体となったPRへの発展が期待される。		・引続き、一般の生産者及び事業者との連携事業として継続する。	適	
6次産業化事業計画認定件数	件	5	26	年度	7	毎月	5	71.4	-	努力を要する	・5(H26)→7(H31)と5年間で2件増を目標としているが、現時点で新規認定事例がない。	・認定のメリットが限定されている。 ・計画作成に手間がかかる。	・農業者に対し認定のメリットの広報を行う。	適	
新技術確立件数	件	7	22～26累計	年度	15	年度末	6	-	40.0	努力を要する	ブドウ農家2戸が、栽培ハウス内の環境を測定し、インターネットを通じて情報を確認、蓄積できる「農業IoT」を導入した。		・市内農協と連携し、農業者に対し新技術導入へに意欲を喚起する。	適	
遊休荒廃農地面積	ha	569	28	年度	566	年度末	542	104.4		達成	・遊休荒廃農地面積が27ha減少した。		・引き続き遊休荒廃農地再生に補助金を交付することなどにより、遊休荒廃農地解消を図る。	否	
歩行者通行量(市街地10か所)	日曜	人	1,659	26	年	1,744	毎年10月頃	1582	90.7	-	順調	・増減があるものの、ここ数年減少傾向が続いている。	・調査地点によっては減少しているところもあり、中心市街地全体でより一層の取組みを行っていく。	・中野市商店会連合会等関係者の意見を聞きながら、活性化の方策について検討を行っていく。	適
	平日	人	3,283	26	年	3,450	毎年10月頃	2491	72.2	-	努力を要する	・ここ数年減少傾向が続いている。	・郊外への大型店の進出等により、市街地の通行量が減少している。	・中野市商店会連合会等関係者の意見を聞きながら、活性化の方策について検討を行っていく。	適
特定専門家セミナー開催数	回	-	-	年度	4	毎月	7.0	175.0	-	達成	・中小企業診断士による創業セミナーを7/9に、創業塾を8/5,19,26,9/2,9、フォローアップセミナーを9/30に開催し、市内外から延75人の参加者があった。1名の創業があった。	・セミナー、塾の開催により、創業に対する興味、知識の習得は得られた。創業後のフォローアップも必要となってくる。	・創業セミナー、塾を継続し、創業者を増やしていく。	適	
学校給食での地元産食材利用率	%	57.1	26	年度	65.0	毎月	59	90.8	-	順調	・地域食材の提供可能期間の延長や種類の増など生産者の努力と地域食材を利用した献立の工夫により、概ね目標に近い数値を得ることができた。	・昨年同様に途中まで順調に推移したが、天候不順の影響により、冬期間に入って、主流の玉ねぎなど早期に出荷止めになり、目標達成に至らなかった。	・今後も、生産者への地元産食材の安定提供に向けた取り組みを進めていざと共、献立への利用推進に努める。	適	
空き家・空き店舗を活用した創業者数	件	-	-	年度	2	毎月	2	100.0	-	達成	・新たに2事業者に店舗改修等支援事業補助金を交付した。	・空き店舗には住宅を兼ねた物件も多くあり、その場合に店舗部分だけを貸すことは現実的に容易ではない。	・商工会議所等と協力し、空き店舗調査や創業者支援を進めていく。	適	

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数 値	測定可能 頻度	H29				課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
女性のための就職支援事業を活用した女性の就業率	%	-	-	年度	30.0	年度末	67.0	223.3	-	達成	<ul style="list-style-type: none"> 45歳未満の女性の再就職支援のため、各種補助事業の活用により、就労へ繋げる支援講座を開催した。 参加者の多くはフルタイムでの就職が困難であるため、就職先における職種が限定されてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> H30より受講対象者年齢を50歳以上に引き上げ、母親に限らず広く女性を募集して、求職の高い職種の支援講座を進めていく。 	適
シルバー人材センター会員数	人	753	26	年度	791	毎月	645	81.5	-	概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> 働く意欲のある高齢者が就労により、生きがいの充実、健康の維持、地域社会への貢献を担うことができた。 定年延長や再雇用などの影響により、新規加入会員が減少傾向である。 	<ul style="list-style-type: none"> 会員ひとり1会員活動を行いたい。 	適
地域ブランド調査観光意欲度全国ランキング	位	685	26	年度	400	毎年10月頃	621	64.4	-	努力を要する	<ul style="list-style-type: none"> 観光宣伝を行っているが、観光意欲度向上に結び付いていない。 地域の特性を生かした観光宣伝を行っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験等地元の特性を生かした観光事業を企画し、ホームページ等で情報発信していく。 	適
観光地利用者延べ人数	万人	52	26	年	54	毎年7月頃	50 (H28)	92.6	-	順調	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比1万人減となった。 既存観光施設のPR及び活用方法をさらに改善していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな観光ルートを作成し、ホームページ等で情報発信していく。また、自然+環境をテーマにしたSEA TO SUMMITにも積極的な誘客をしていく。 	適
中野市版DMOの設立		-	-	年度	設立	-	-	#VALUE!	-	効果が現れていない	<ul style="list-style-type: none"> 商工会議所を中心に検討したが、困難と結論が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業公社と観光協会が一緒になって観光事業を行う体制づくりを協議している。 	適

【基本目標4】確かな暮らし実現戦略 ～安心安全・健康長寿のまちづくり～

■基本目標

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
健康寿命	男性	歳	79.75	25	年度	平均寿命の 増加分を 上回る健康 寿命の増加	毎年10月以降	80.50 (H27)	91.0	-	順調	・糖尿病重症化予防プログラムを開始し、重症化の防止に着手するとともに、運動習慣のきっかけづくりとなる「ウォーキングバーチャルの旅」事業、「食と健康に関する共同啓発」を実施した。 ・高血圧、糖尿病、脂質異常症の発症と重症化を防止する。 ・若年世代からの、減塩や栄養のバランスなどの食意識、運動習慣の向上を図る。	・運動習慣のきっかけづくりのほか、栄養バランス等食意識の向上をさせるため、店舗と共同啓発を行う。 ・減塩の啓発活動、学童期からの糖尿病予防。 ・出前健康講座など、健康づくりの情報提供を行う。	適
	女性	歳	84.78	25	年度		毎年10月以降	84.16 (H27)	110.0	-	達成			適
小さな拠点の形成		箇所	-	-	年度	1 ※2	年度末	-	#VALUE!	-	効果が現れていない	・豊田地域在住の18歳以上の人のうち、1,700人を対象に住民アンケート調査を実施した。	・アンケート調査の詳細分析。 ・住民を主体としたワークショップを開催し、今後の方針を決める。	適

※2 累計

■重要業績評価指標 (KPI)

項目・指標等	基準数値概要				H31 目標数値	測定可能 頻度	H29					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)	年/年度			実績値	達成率	進捗率	進捗状況	成果			
介護予防教室参加率	%	75	29	年度	85	毎月	77.9	91.6	-	順調	・参加勧奨の見直しを行い、参加者数の増加が図られ、心身機能の維持・改善にむけた介護予防が実施できた。	・効果的な教室内容の検討。	・引き続き参加者増加に向けた取組みと効果的・効率的な介護予防を推進する。	適
入所している障がい者の福祉施設から地域生活への移行者数	人	0	26	年度	6	毎月	3	50.0	-	努力を要する	・実績値はないが、継続的な相談を行った。	・福祉施設から地域生活への移行が可能な対象者がいなかったため。	・引続き、相談支援体制等を整え、移行者の増加を目指す。	適
地域医療従事医師奨学資金貸付者で北信総合病院に勤務した医師数(※3)	人	3	制度開始からの延べ人数	年度	6	毎月	4	0.0	33.3	努力を要する	・貸付者のうち、新たに北信総合病院に勤務した医師は1人であった。	・平成29年度は、当初2人の北信総合病院への勤務を予定していたが、都合により1人は平成30年度からの勤務となった。	・北信総合病院と連携して事業を実施していく。	適
「中野市すぐメール」の登録数	件	-	-	年度	4,291	毎月	2,413	0.0	56.2	概ね順調	・登録者数が進捗状況のとおり増加している。	・認知度及び必要性を高めるサービス内容の拡充を検討。	・利用者が必要とする情報をより的確に配信できるように選択項目も細分化。 ・既存配信情報以外で利用者が求める情報をアンケート調査により収集。その結果に基づき、配信情報の追加や配信ルールを確立し、利用者にとって重要な情報源となるよう改善していきたい。	適
自主防災組織の組織率	%	39.5	26	年度	47.4	毎月	42.1	88.8	-	概ね順調	・組織化に向けた住民説明会を8回開催し、住民意識の向上が図られた。	・地域により組織化に向けた意識に温度差がある。	・引き続き講座等を通じて意識の向上を図る。	適
1日あたりふれあいバス利用者数	人	14	26	年度	31	毎月	31.6	101.9	-	達成	・「倭・科野地区」及び「間山線」のダイヤ・ルート等の見直しを行い、利便性・効率性の向上を図った。		・「豊田地域」の利用者数の増加に向け、ダイヤ・ルート等の見直しを行う。	適
新幹線飯山駅の1日平均乗車数	人	500	開業後1カ月の日平均	年度	1,300	要確認	550	42.3	-	努力を要する	・近隣市町村が連携し、生活基盤の整備、広域観光の促進等を推進するため、北信地域定住自立圏第二次共生ビジョンを改正し、第2版を作成した。	・新幹線駅活用について、2次交通や観光利用だけでなく総合的に検討する必要がある。	・近隣市町村と連携し、生活基盤の整備、広域観光の促進等を推進する。 ・インバウンド対応の英語表記案内板を建てた。	適

項目・指標等	基準数値概要			H31 目標数 値	測定可能 頻度	H29					課題または達成できない原因	今後の取組	指標の適否
	単位	基準数値	基準年(年度)			年/年度	実績値	達成率	進捗率	進捗状況			
姉妹都市等との連携によるイベント数	回	6	26	年度	12	毎月	5	41.7	-	努力を要する	・官民協働で都市交流の連携を図った。 ・新たな交流スタイルを追求する。	・引き続き官民協働による市民交流の場を提供する。	適
中野市関連フェイスブック登録者数	件	879	26	年度	3,000	毎月	2,748	0.0	88.1	順調	・豊田地域の良さ(古き良き原風景が残る自然・農産物・住んでいる人たちの暮らしぶり、四季の移り変わり等)のPRが少なかった。 ・投票日当日に用事があっても投票できる方法の周知啓発が課題。	・一般の生産者及び事業者との協働で実施する情報発信事業として継続する。 ・4月から隊員が4名になったことを知ってもらい、情報発信を積極的に行っていききたい。 ・政治と生活や個人の意見は関係ある事を啓発していく必要がある。関係機関と連携等工夫をする中で選挙啓発を行う。	適

※3 制度開始から延べ人数

地方創生推進交付金(H29事業)

交付対象事業の名称	事業の概要	交付額 単位:円	重要業績評価指標(KPI)				目標値	実績値	今後の取組
			指標	基準値	単位	目標年月			
1 稼ぐ農業の実現に向けた「信州なかの」ブランド構築プロジェクト	農産物生産者、加工業者、販売業者、飲食店、各種団体(JA等)などで組織している「中野市産地・観光PR用シンボルマーク事業者組織」(以下、シンボルマーク事業者)において事業者の連携による新商品開発、大規模見本市への出展支援等による販路開拓などにより各事業者の営業力の底上げを図るほか、「信州なかの」製品の付加価値を高めるため、情報発信を継続的かつ全国的に行うことによりブランド定着の素地をつくる。 また、栽培きのこの産業化に先進的に取り組んできた「きのこの聖地」としてのアイデンティティを確立し、全国への発信力を高める拠点施設として民間資本による「(仮称)きのこミュージアム」の設立を支援し、雇用創出を図るとともに、「信州なかの」のブランド定着の起爆剤とする。	22,897,000	農業所得	3,403	千円	H33.3	3,453	4,186	<ul style="list-style-type: none"> ・販売促進、認知度向上を図る。 ・各種就農相談会に参加し、中野市の農業についてPRする。 ・事業者間連携を推奨し、新商品開発やイベント参加により認知度向上を図る。
			新規就農者数	15	人	H28~H32年度累計	140	40	
			地域ブランド調査認知度全国ランキング	801	位	H33.3	375	828	
2 信越自然郷におけるDMO構築推進事業	<p>信越自然郷エリアが、世界水準の滞在型観光地となるべく、「信越9市町村広域観光連携会議」と地域連携DMOである「(一社)信州いいやま観光局」が一体、連携をし、次の事業を実施する。</p> <p>①【DMO構築及び組織強化】 DMO組織の強化、構築を行う。</p> <p>②【保養・獲得型旅行商品開発及びプロモーション】 エリアの価値を体験できるプログラム造成、販売及びエリアの認知度、知名度を上げるためPRを実施する。</p> <p>③【地域ブランドを活かすための受入コンテンツ整備】 アウトドアアクティビティを楽しめる環境の整備を行う。</p>	206,000	観光消費額	441	億円	H32.3	466		
			延宿泊数	564	万人	H32.3	597		
			飯山駅観光案内所(ワンストップ)窓口利用者数	65,456	人	H32.3	69,470		
3 水清きふるさとの水質保全事業	<p>①【浄化槽設置促進事業】 合併処理浄化槽の設置促進を図る。</p> <p>②【し尿等投入施設整備事業】 ※国土交通省、所管 中野浄化管理センター敷地内にし尿等投入施設を整備し、H31.12月稼働を目指す。</p>	①交付金 要望なし	汚水処理人口普及率の向上	95.8	%	H32.3	96.1	96.0	<p>①汚水処理人口普及率を更に向上させるため、浄化槽の設置促進を図る。</p> <p>②し尿処理経費は自然減によるものであり、H28、29事業費をH30へ繰越したため、早期事業推進を図る。</p>
		②136,500,000	し尿処理経費の削減	65,368	千円	H32.3	15,000	50,659	

地方創生推進交付金(H30事業)

	交付対象事業の名称	事業の概要	交付額 単位:円	重要業績評価指標(KPI)				目標値
				指標	基準値	単位	目標年月	
1	稼ぐ農業の実現に向けた「信州なかの」ブランド構築プロジェクト	農産物生産者、加工業者、販売業者、飲食店、各種団体(JA等)などで組織している「中野市産地・観光PR用シンボルマーク事業者組織」(以下、シンボルマーク事業者)において事業者の連携による新商品開発、大規模見本市への出展支援等による販路開拓などにより各事業者の営業力の底上げを図るほか、「信州なかの」製品の付加価値を高めるため、情報発信を継続的かつ全国的に行うことによりブランド定着の素地をつくる。 また、栽培きのこの産業化に先進的に取り組んできた「きのこの聖地」としてのアイデンティティを確立し、全国への発信力を高める拠点施設として民間資本による「(仮称)きのこミュージアム」の設立を支援し、雇用創出を図るとともに、「信州なかの」のブランド定着の起爆剤とする。	16,507,000	農業所得	3,403	千円	H33.3	3,453
				新規就農者数	15	人	H28~H32 年度累計	140
				地域ブランド調査認知度全国ランキング	801	位	H33.3	375
2	信越自然郷におけるDMO構築推進事業	信越自然郷エリアが、世界水準の滞在型観光地となるべく、「信越9市町村広域観光連携会議」と地域連携DMOである「(一社)信州いいやま観光局」が一体、連携をし、次の事業を実施する。 ①【DMO構築及び組織強化】 DMO組織の強化、構築を行う。 ②【保養・獲得型旅行商品開発及びプロモーション】 エリアの価値を体験できるプログラム造成、販売及びエリアの認知度、知名度を上げるためPRを実施する。 ③【地域ブランドを活かすための受入コンテンツ整備】 アウトドアアクティビティを楽しめる環境の整備を行う。	180,000	観光消費額	441	億円	H32.3	466
				延宿泊数	564	万人	H32.3	597
				飯山駅観光案内所(ワンストップ)窓口利用者数	65,456	人	H32.3	69,470
3	水清きふるさとの水質保全事業	①【浄化槽設置促進事業】 合併処理浄化槽の設置促進を図る。 ②【し尿等投入施設整備事業】 ※国土交通省、所管 中野浄化管理センター敷地内にし尿等投入施設を整備し、H31.12月稼働を目指す。	①交付金 要望なし	汚水処理人口普及率の向上	95.8	%	H32.3	96.1
			②25,000,000	し尿処理経費の削減	65,368	千円	H32.3	15,000